

製品名: PBK ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02404**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.65mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 36 kDa; Observed MW: 40 kDa

抗原情報

遺伝子名	PBK
別名	PBK; TOPK; Lymphokine-activated killer T-cell-originated protein kinase; Cancer/testis antigen 84; CT84; MAPKK-like protein kinase; Nori-3; PDZ-binding kinase; Spermatogenesis-related protein kinase; SPK; T-LAK cell-originated protein kinase
遺伝子 ID	55872
SwissProt ID	Q96KB5
免疫原	ヒト PBK/SPK の組み換えタンパク質

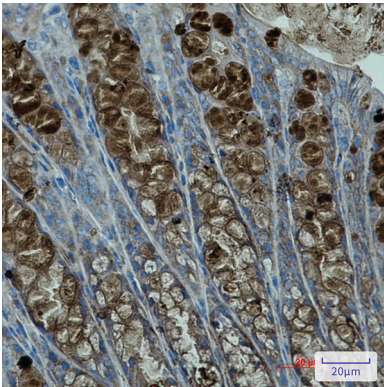
背景

この遺伝子は、二重特異性マイトジェン活性化プロテインキナーゼキナーゼ（MAPKK）ファミリーに関連するセリン/スレオニンキナーゼをコードしています。このキナーゼの触媒活性には、有糸分裂期のリン酸化が必要であることが示唆されています。この有糸分裂期キナーゼは、リンパ球細胞の活性化に関与し、Ticular 機能をサポートする可能性があり、精子形成過程における役割が示唆されています。

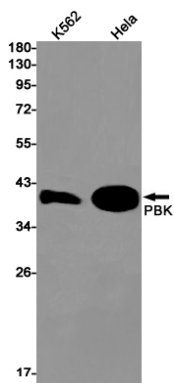
研究分野

細胞生物学

画像データ



PBK 抗体を使用したパラフィン包埋マウス結腸の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



PBK 抗体を使用した K562、Hela 溶解物中の PBK のウエスタン ブロット分析。